

音威子府村 端末整備更新計画（令和7年3月時点）

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
1. 児童生徒数	18	18	18	20	17
2. 整備上限台数 (予備機含む)	0	20	0	2	0
3. 整備台数 (予備機除く)	0	18	0	0	0
4. うち基金事業によるもの	0	18	0	0	0
5. 累積更新率	0%	100%	100%	100%	100%
6. 予備機整備台数	0	2	0	0	0
7. うち基金事業によるもの	0	2	0	0	0
8. 予備機整備率	0%	100%	100%	100%	100%

【端末の整備・更新計画の考え方】

本村における一人一台端末については、令和2年度にiPadを整備、運用している。iPadの特徴である直感的な操作性や携帯性、堅牢性を生かした校外学習での活用など、小学校・中学校ともに様々な学習活動において効果的な活用がされてきているところである。しかし、近年においてはメモリ不足等の経年劣化による、運用上の不具合が発生してきている。

端末が耐用年数を迎える令和7年度にあたっては、端末を効果的に活用した学習活動の継続と更なる発展を目的に、従来と同様にiPadを本村GIGA端末とする端末の更新を行う。

ただし、本村においては児童生徒数が少ないことから、人数の増減が少数であっても、予備台数に与える影響が大きい。そのため、計画の見なおしについては、時期に限らず、情勢に応じて適宜行うこととする。

【更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について】

○対象端末台数 27台

○処分方法

- ・学校教育の現場にて利用（児童生徒予備機、教職員・管理職用端末等） 10台
- ・社会教育の現場にて利用（各種社会教育事業等） 10台
- ・村内公共施設等にて利用 7台

○スケジュール（予定）

令和7年 3月 入札による事業者の決定（道教委）

4月 事業者との契約

12月 事業者による端末納入 ※予定

納入次第、速やかに初期設定等を実施し、運用を開始する

音威子府村ネットワーク整備計画（令和7年3月時点）

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合

（1）必要なネットワーク速度が確保できている学校数 1校

（2）総学校数に占める割合 100%

※本村においては音威子府小学校と音威子府中学校を設置しているが、校舎を共有する「小中併置校」であることから、本項目では「1校」と表記した

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

（1）ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

令和6年度において、小中学校のアクセスポイントの機器更新を実施しており、現時点では必要なネットワーク速度は確保できている。今後の学習用端末の利用状況の変化等も考慮しながら、適宜アセスメントを実施する。

（2）ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

現状では改善を要していないが、必要に応じて適宜計画の見なおしや、改善への対応に取り組むこととする。

音威子府村校務DX計画（令和7年3月時点）

本村小中学校では、クラウドツールであるGoogle Workspace for Educationを導入し、教職員間の情報共有や職員会議における活用および児童生徒との情報共有等をおこなっている。

今後は、学校における教育目標実現の観点、個人情報保護・情報セキュリティの観点および働き方改革の観点を踏まえ、校務のDX化について検討、推進していく。また、令和7年度にはICT支援員を配置し、ICTを活用した学びの質の向上とともに、教職員の業務負担軽減につながるよう取り組みを進めていく。

今後も、刻一刻と変化する社会情勢や、先進地域の取り組み等も踏まえながら、関係機関や専門家とも協力・連携して、適宜計画の見なおしも含めたDX化の推進に取り組むこととする。

音威子府村1人1台端末の利活用に係る計画（令和7年3月時点）

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

情報技術の発展やグローバル化の進展に伴い、価値観や生活様式が多様化し、現代の日本社会は、今までに例を見ないほどに変化の激しい時代にある。そのようななか、教育現場、特に義務教育段階では、持続可能な社会の創り手の育成が求められている。

そのことを踏まえて、GIGA第1期にて定着したICT端末を活用した学びを通じて、個々の児童生徒が持つ可能性を最大限伸ばす「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現・充実、さらには「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。

2. GIGA第1期の総括

令和2年度に、村内小中学校にICT端末を導入するとともに、校内ネットワーク環境の整備を実施した。以降、各種学習用アプリケーションや学習用汎用クラウドサービスGoogle Workspace for Education等を随時導入しながら、校内における学習活動、学級活動のみならず、校外学習・自宅学習においても日常的に端末を利用しており、もはやICT端末は学習活動に欠かせないツールとなっている。

令和6年度には、校舎のアクセスポイント機器の更新を実施し、ネットワーク接続の安定性が向上したほか、導入した端末の耐用年数を迎える令和7年度には、端末の更新を行う予定である。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGA第1期の取り組みにおいて、ICT端末が、児童生徒の学習活動において、他の文房具と同様に欠かせないツールとなるとともに、児童生徒が、その活動に合わせてICT端末を使いこなすことができるようになる学習環境の構築を進めることができた。

GIGA第2期においては、端末活用は児童生徒の学びの手段であることに留意しながら、学習活動や学級活動の各場面において、ICT端末をより効果的に活用できるよう、様々な支援を講じるほか、地域学習の観点から、端末を活用した都市部の学校との交流授業の検討も進めていく。また、ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、学校をはじめとした各機関と連携を図りながら学び方、関わり方について研究を重ねるとともに、ICT支援員の設置も含めた機器活用のサポート体制を検討、構築していく。